

においても、多言語対応の相談窓口を設置しており、外国人県民からの相談に対応している。

④誰もが参加できる活力ある地域づくりは、人口の中で占める割合が増え続ける外国人県民の地域づくりへの参加を促す取組である。平成十一年に創設された兵庫県外国人県民共生会議は、行政と外国人コミュニティが外国人県民を取り巻く課題について対話し議論する場となっている。ビジネス人材、留学生等の積極的な受入れも地域の活性化に寄与すると期待される。県は、前述の外国・外資系企業の誘致のほか、留学生に対する支援や県内企業への就職促進に取り組んだ。具体的には、私費外国人留学生を対象とする奨学金制度の創設、外国人留学生の県内企業等におけるインターンシップ、県内中小企業・留学生の就職マッチング事業などを実施したほか、外国人留学生の採用に対して、県内中小企業への奨励金支給を行う事業を開始した。

第五節 ツーリズムの新展開

一 観光立国の推進と県観光施策の総合的展開

観光立国 平成二十五（二〇一三）年度の訪日外国人旅行者数は、一〇三六万人となり、十五年以来目標とへの取組 されていた一〇〇〇万人を達成した。我が国では、平成十五年一月に、当時の小泉純一郎内

閣総理大臣がいわゆる「観光立国宣言」を発して以降、観光振興は国策の重要な柱の一つとして位置づけら

れ、特に訪日外国人旅行者の増大が図られてきた。観光振興が重要政策とされた背景には、少子高齢化がある。我が国の少子高齢化は、世界的に見ても急激に進行し、平成十二年からは、人口減少社会へと転じた。少子高齢化や人口の減少への対応として、国内外からの交流人口の増大によって、地域活性化を図ろうとしたのである。観光立国宣言以降、海外への日本ブランドを戦略的に発信するビジット・ジャパン・キャンペーンの開始、観光立国担当大臣の任命などが進められた。

平成十八年十二月に、観光立国推進基本法が成立し、「観光立国を実現することは、二一世紀の我が国経済社会の発展のために不可欠な重要課題である」と位置づけられた。基本施策として「国際競争力の高い魅力ある観光地の形成」「観光産業の国際競争力の強化及び観光の振興に寄与する人材の育成」「国際観光の振興」「観光旅行の促進のための環境の整備」が規定された。

平成十九年六月には、観光立国推進基本計画が策定された。

国内旅行消費額の拡大、訪日外国人旅行者数の増加、日本人の海外旅行者数の増加、国際会議の開催件数の増加などについて、具体的な数値目標が掲げられた。また、地域の民間組織や地方公共団体、観光関係者等による観光まちづくりの支援等に取り組みこととされた。

平成二十年十月、観光庁が発足し、観光立国推進基本計画に基づき地方の観光地化促進や海外へのプロモーション活動のほか、観光地域づくり相談窓口の設置などの業務を執行している。

県の観光施策 の総合的展開

平成十八年は、兵庫県の新たな空の玄関口となる神戸空港の開港や五〇年ぶりとなるのじぎく兵庫国体の開催など、本県の注目度が高まる状況にあった。平成十八年四月、知事を本部

長として、部局間の連携の下に観光施策の総合的展開に取り組み「兵庫観光ツーリズム推進本部」を設置した。また、観光行政を専管する観光参事と観光局を設置した。平成二十三年四月には、関西広域連合における広域観光振興の取組への対応など観光施策の一層の推進を図るため、観光参事を廃止し、新たに観光監を設置した。

県では、「ひょうごツーリズムビジョン」、「前期行動プログラム」、「後期行動プログラム」に基づき、観光振興に取り組み、平成二十三年三月には、「ひょうごツーリズム戦略」を策定した。

同戦略では、「五つ星ひょうご」をひょうごのツーリズムの将来像として位置づけた。兵庫県は五つの国（摂津、播磨、但馬、丹波、淡路）を星に見立て、地域の魅力が星座のように一体となり、人々にとって満足がえられる交流の場とすることを目指すものであった。

同戦略は、民間主体の活動と県等による支援促進策の「基本戦略」と県等が主体となり民間活動を振興する取組である「振興戦略」から成る。基本戦略では、「様々なニーズに応える地域の魅力づくり」「魅力をさらに輝かせるプロモーション」「ツーリズムを担う人材育成」など五つの取組を掲げた。振興戦略では、「ツーリズムを支える関連産業支援とインフラ整備」「ツーリズムの総合的推進」を設定した。同戦略は、三カ年（平成二十六年、二十九年）ごとに改定が行われ、県内の観光資源を生かした観光振興に取り組んだ。

平成二十九年三月に策定されたひょうごツーリズム戦略（平成二十九〜三十一年度）では、「『あいたい兵庫』人の交流、もっと盛んに」を掲げ、交流人口（観光入込者数）と観光消費額の拡大の二つの柱を重点とした。「兵庫ならではのツーリズムづくり」「外国人旅行者をもてなす国際ツーリズムづくり」「地域の産業と協働する

観光地域づくりを推進した。DMOの三つに分類される。平成三十年十一月時点で、全国で二〇八件の法人が登録されており、各地でDMOの三つに分類される。平成三十年十一月時点で、全国で二〇八件の法人が登録されており、各地で観光地域づくりを推進した。

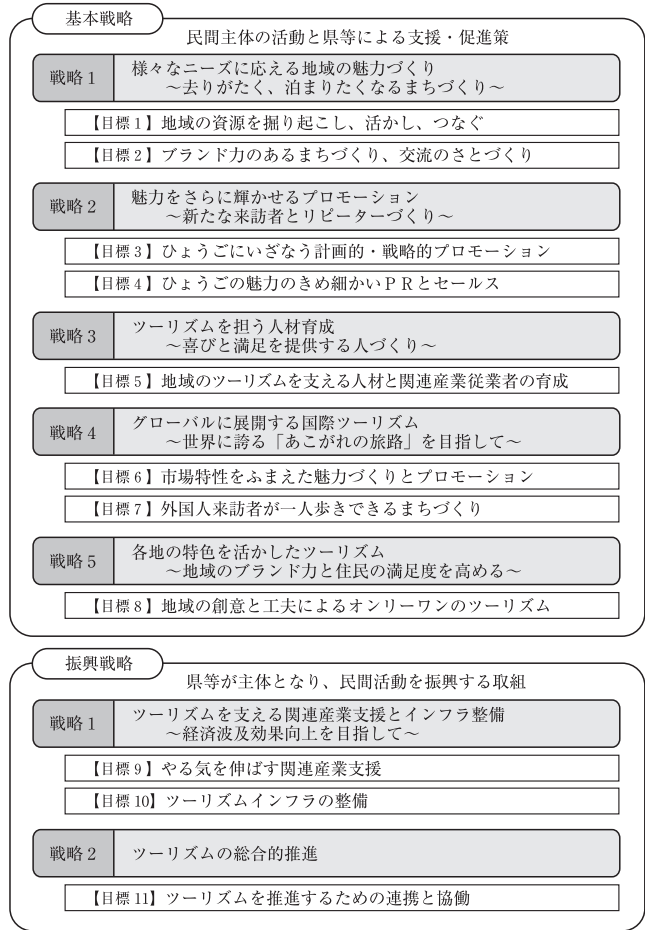


図70 ひょうごツーリズム戦略 基本戦略・振興戦略
 (『ひょうごツーリズム戦略』より作成)

「国際的なスポーツイベントをとらえた交流の拡大」「ひょうご五国の地域ツーリズム」を戦略として設定し、観光振興を推進した。

また、観光を通じて地域の「稼ぐ力」を引き出すために、DMO (Destination Management Organization) の整備が進められた。DMOは、地域の宿泊施設・飲食店、交通事業者など多様な関係者を巻き込みながら、観光地域づくりを進める組織であり、規模に応じて「広域連携DMO」「地域連携DMO」「地域DMO」の三つに分類される。平成三十年十一月時点で、全国で二〇八件の法人が登録されており、各地で観光地域づくりを推進した。

表 55 対象区域に県及び県内市町を含む登録 DMO

区分	名称	対象区域	登録時期(平成)
広域連携	一般財団法人 関西観光本部	福井県、三重県、滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県、鳥取県、徳島県	29年11月
広域連携	一般社団法人 せとうち観光推進機構	兵庫県、岡山県、広島県、山口県、徳島県、香川県、愛媛県	29年11月
地域連携	一般社団法人 豊岡観光イノベーション	【兵庫県】 豊岡市 【京都府】 京丹後市	30年7月
地域連携	一般社団法人 麒麟のまち観光局	【鳥取県】 鳥取市、岩美町、智頭町、若桜町、八頭町 【兵庫県】 新温泉町、香美町	30年3月
地域	一般財団法人 神戸観光局	【兵庫県】 神戸市	29年11月

※対象地域の記載順は観光庁資料のとおり

(観光庁資料より作成)

兵庫県が参加する広域連携DMOには、関西観光本部、せとうち観光推進機構の二つがある。県内の地方自治体が参加する地域連携DMOは、豊岡観光イノベーション、麒麟のまち観光局があり、地域DMOとしては、神戸観光局がある。

二 県内観光誘客に向けた多角的取組の展開

県内観光 誘客の取組 この時期、県内観光の誘客に向けて様々なイベントやキャンペーンが実施された。以下に主なものを取り上げる。

平成二十年四月から五月にかけて、姫路城周辺を会場として、第二五回全国菓子大博覧会「姫路菓子博2008」が開催された。五〇〇〇を超えるお菓子が一同に集まり、菓子職人による実演や試食・購入が行われ、和菓子と洋菓子で作成する高さ二・八メートルに及ぶ巨大芸菓子「姫路城と大名行列」の展示やお菓子づくり教室などが催された。従来の大会は和菓子を中心であったが、洋菓子や中華菓子も取り上げるなど、兵庫県らしさを持つ博覧会となった。二四日間の開催期間を通じて、全国各地から九二万二

表 56 あいたい兵庫キャンペーン テーマ・キャッチコピー一覧

年度	テーマ	キャッチコピー
H22	美食、温泉、風光明媚	兵庫の秋はすべてが美しい
23	食	実りの秋です、世にも美味しい兵庫へようこそ。
24	平清盛 (NHK大河連動)	「平清盛」物語の中へ…
25	食	ごこく、五馳走
26	ロケ	物語（ドラマ）ちっくに愛たい兵庫
27	温泉	温泉プラスワンツアーズム
28	西洋文化・子供 (NHK朝ドラ連動)	ひょうご別品（べっぴん）体験記
29	食	ごこく豊穡
30	兵庫の遺産	ひょうご遺産が紡ぐ物語

(兵庫県資料より作成)

〇〇〇人の来場を得た。
 平成二十一年四月から六月にかけて、全国のJ.Rグループ旅客六社（北海道、東日本、東海、西日本、四国、九州）と指定された自治体、地元の観光事業者等が共同で実施する大型観光キャンペーンである「あいたい兵庫デステイネーションキャンペーン」が行われた。

県では、播磨の国宝寺院を巡るツアーや丹波竜をテーマとした周遊バスの運行など一〇〇を超える特別イベントを実施したほか、五一のひょうごまち歩きコースを設けるなど、県内各地で観光客を受け入れようとした。しかし、キャンペーン中に新型インフルエンザが流行し、全国的に観光客が激減した。開催期間中の主要観光施設への観光客入込数は対前年同期比で九九・九%となり、目標の一〇〇%を達成できなかった。そこで、観光地のにぎわいを取り戻すため、同年七月から九月に県の独自事業として「やっぱり、ひょうごキャンペーン」を実施した。県内温泉地での花火大会などのイベント開催や県立観光施設の割引などにより、三カ月の総入込数は対前年同期比で一二・八%の増加となるなど、全国から多くの旅行者が本県を訪れた。この成果を一過性のものとせず、引き続き県内への観光誘客を図るため、翌平成二十二年度からは「あいたい兵庫キャンペーン」



写真 176 姫路城「平成の大修理」(姫路市提供)

人の来場を得た。

平成二十七年三月二十七日に、六年間に及ぶ修理を終え、姫路城は新たにグランドオープンした。

披露された姿は、白漆喰が目映く輝き、別名である「白鷺城」に相応しいものであった。折しも、訪日外国人旅行者数が急速に拡大した時期であり、修理後の姫路城は県内誘客に大きな効果をもたらした。平成二十七年年度の姫路城観光客人込数は二八六万七〇〇〇人であり、修理前の二十年度と比べ、一六七万二〇〇〇人増加した。また、兵庫県立大学政策科学研究地域経済指標研究会によると、県内経済波及効果は六一五億五〇〇〇万円に及んだ。

平成二十二年三月から五月にかけて、淡路花博開催一〇周年を記念して「淡路花博2010花みどりフェ

として観光振興を図った。県、市町、観光関連団体などが一体となり、秋の観光シーズンに合わせ兵庫の魅力を全国に発信し、NHK大河ドラマと連動したイベントやガイドブック作成、キャラバン隊による広報宣伝などを行っている。

世界遺産・国宝の姫路城は、平成二十一年四月から「平成の大修理」と呼ばれる「国宝姫路城大天守保存修理事業」を行った。傷みや汚れの激しくなった漆喰壁の塗り直しや屋根瓦の葺き直し、耐震工事などを実施した。工事期間中も、修理状況の見学施設「天空の白鷺」を開館するとともに、通常は一般公開していない施設の公開など誘客に努め、三年間で一八四万



写真 177 淡路花博 2010 花みどりフェア

ア」が開催された。国立明石海峡公園と淡路夢舞台をメイン会場、淡路ワールドパークONOKOROや淡路ファームパーク・イングランドの丘など二の施設をサテライト会場とし、二一八万八〇〇〇人の来場者数を得た。淡路花博から一五年目となる平成二十七年の三月から五月にかけては「淡路花博2015花みどりフェア」を開催した。拠点会場を淡路、洲本、南あわじの各市に設け、伊弉諾神宮など島内四三の観光施設をサテライト会場とした。会場間シャトルバスの運行などにより全島回遊型として開催し、淡路島全体を会場とするフェアとなった。会期を通じて、目標三〇〇万人を上回る三五九万二〇〇〇人の来場者を達成した。

平成二十二年五月に開催された上海国際博覧会では、知事を団長とする観光プロモーション団が、同年七月十日から十八日にかけて「兵庫ウィーク」を開催した。県内観光協会や現地旅行社が参加する観光セミナーや商談会・交流会を行い、県の観光資源をPRした。

平成二十七年七月には、イタリア・ミラノ国際博覧会でも「Feel Hyogo, the Taste of Japan! (体感！ひょうごの「食」)」をテーマに、日本館において、兵庫の食材や観光、文化をPRする総合イベントが実施された。知事がトップセールスを行い、世界に誇る最高級食材である神戸ビーフと淡路島たまねぎを使った料理や日本伝統の「書」の公開揮毫、淡路人形浄瑠璃の公演を通じて、ひょうご五国の「農」「食」「観光」の魅力の発信に努めた。



写真 178 神戸に寄港したクイーン・エリザベス（神戸市提供）

B-1グランプリは、全国各地のご当地グルメと地域のPRやおもてなしについて、来場者の投票形式でグランプリを決定する催しで、観光客の誘客や地域活性化を目指すものである。

本県では、平成二十三年十一月、「第六回ご当地グルメでまちおこしの祭典！B-1グランプリin姫路」が開催された。全国六三団体が参加し、五一万五〇〇〇人の来場者を得た。平成二十八年十二月に開催された東京大会では、玉子焼を擁する明石市がゴールドグランプリを受賞した。

神戸開港一五〇年を記念して、平成二十九年一月から十二月にかけて「神戸開港一五〇年記念事業」が実施された。二月に神戸港湾国際会議が開かれ、三月に客船「クイーン・エリザベス」の神戸港を発着地とするクルーズなどが行われた。五月には神戸開港一五〇年記念式典、七月から八月は「海フェスタ神戸」が実施され、神戸開港一五〇年みなどこうべ海上花火大会や国内外の帆船を集めた「帆船フェスティバル」が催された。

また、平成三十年七月には、県政百五十周年の記念式典が開催された。式典のほか、県立美術館スペイン音楽会や県立図書館兵庫一五〇年―本の中の記憶など、県立美術館・博物館で関連する記念イベントが行われ、八月には県政百五十周年みなどこうべ花火大会が開催された。

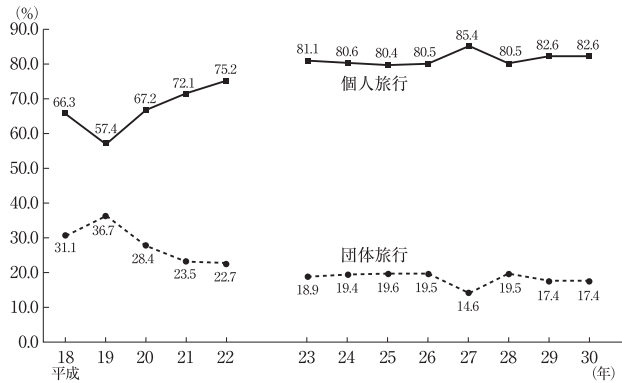
ニューツーリズム、平成十九年六月策定の観光立国推進基本計画において、体験型、交流型等の特色を有する新たな形態の旅行（ニューツーリズム）が規定された。

テーマ別観光の展開

する新たな形態の旅行（ニューツーリズム）が規定された。

国内外の観光客に新たな地域への来訪動機を与える「テーマ別観光」のモデルケースの形成を促進するなど、地方への観光誘客に取り組んだ。

訪日外国人旅行者の再訪のためにも、体験・交流型の観光を開発することが重要とされた。平成三十年三月の「楽しい国日本」の実現に向けて（提言）では、体験型コンテンツ市場の形成・発展に向けて、市場



(注) 平成 23 年から調査手法を変更したためデータが連続しない。

図 71 日本人国内旅行における個人・団体旅行の比較
 (『観光の実態と志向』より作成)

本編の時期において、個人旅行と団体旅行の割合を見ると、平成十九年度は個人旅行が五七・四％、団体旅行が三六・七％であった。これが、平成三十年度には個人旅行が八二・六％、団体旅行が一七・四％となっており、旅行の個人化の傾向が進んだ。旅行の個人化とともに、旅行者は趣味・嗜好に応じて、観光先での体験や交流を重視するニューツーリズムを求めるようになった。

ニューツーリズムの促進には、顧客ニーズの把握や旅行商品化に向けたノウハウの蓄積が必要である。また、地域発の旅行商品と旅行者を結ぶ仕組みの構築が必要であった。国土交通省は「ニューツーリズム創出・促進事業」推進協議会を開催し、ニューツーリズム旅行商品の市場を活性化することを目指した。平成二十年度からは観光庁において、観光地ビジネス創出の総合支援などニューツーリズムの振興を推進した。平成二十八年度からは、



写真 179 現存する日本最古の酒蔵「旧岡田家住宅・酒蔵」(伊丹市提供)

全体の網羅的な調査、ニーズの把握、それらを活用した分析や新たなテーマの掘り起こし等を進めていくことが必要であるとしている。

体験型コンテンツに着目したニューツーリズム、テーマ別観光には、産業観光、エコツーリズム、グリーンツーリズムなどテーマごとに様々な形態がある。以下、いくつかの例について概観する。

産業観光は歴史的・文化的価値のある工場等やその遺構、機械器具、最先端の技術を備えた工場を観光し、学びや体験を得るものである。県内には、清酒発祥の地・伊丹や灘五郷(神戸市東灘区、同市灘区、西宮市、芦屋市)の酒造施設、江戸幕府直轄鉾山として栄えた生野銀山(朝来市)、かつて日本一の錫鉾山であった明延鉾山(養父市)や同鉾山から産出された鉾石の選別を行った神子畑選鉾場跡(朝来市)といった施設の見学やツアーなど多くの産業観光がある。

エコツーリズムは観光旅行者が自然観光資源についてのガイドを受けながら、自然に触れ合い、知識や理解を深める活動を指す。平成十九年六月には、エコツーリズム推進法が制定され、エコツーリズム憲章の策定やエコツーリズム大賞の表彰、モデル事業などが実施された。モデル事業では、神戸市の六甲地区をはじめとする全国一三地区の取組が平成十六年度から三カ年支援された。

県では、県民の環境保全意識を高め、実践活動への参加の契機とするため、県内施設で環境学習を実施する団体等にバス等借上げ経費を助成する「エコツーリズムバス」制度を設けるなど、推進に取り組んだ。県



写真 180 兵庫楽農生活センターでのグリーンツーリズム（ひょうご農林機構提供）

内市町においても、例えば、豊岡市では、コウノトリ生育地域を保全する活動と観光を融合した「コウノトリツーリズム」に取り組んでいる。兵庫県コウノトリの郷公園内に立地しコウノトリの生態や野生復帰について学ぶことができる豊岡市立コウノトリ文化館において、生育地域である湿地内の清掃・除草作業や水路づくりなどの体験を通じて、環境保全の取組に対する啓発を目指している。

グリーンツーリズムは、農山漁村地域において自然、文化、人々との交流を楽しむ滞在型の余暇活動である。農作業体験や農林漁家民泊、食育などがこれに当たる。

県では、推進マニュアルを策定したほか、平成十五年四月にグリーンツーリズム特区（兵庫県、豊岡市、香美町、新温泉町）の認定を受けるなど、推進に取り組んできた（第三編第七章第六節三の「ツーリズムの展開」参照）。

平成十八年十一月に開園した兵庫楽農生活センター（神戸市西区）において、地元農業者グループとともに実施する親子での米作り体験など、地域の協力を得ながら、グリーンツーリズムを推進している。

県内市町でも取組が進められた。都市と農山漁村の共生・対流に関する優れた取組を表彰する「オーライ！ニッポン大賞」（主催：オーライ！ニッポン会議（都市農山漁村の共生・対流推進会議））では、平成十六年度に八千代町における滞在型市民農園整備等の取組が第二回グランプリ（内閣総理大臣賞）を受賞した。このほか、大賞では、北はりま田園空間博物館（西脇市）が第三回に、審査委員長賞では、兵庫県子ども自然村（神



写真 181 ひめじの黒田官兵衛 大河ドラマ館
(姫路市提供)

戸市)が第一回、ふるさと応援隊(南あわじ市)が第七回、いえしま(姫路市)が第八回、かみかわ田舎暮らし推進協会(神河町)が第一三回、棚田 LOVER's (市川町)が第一四回に受賞している。

コンテンツツーリズムの定義は、「地域に関わるコンテンツ(映画、テレビドラマ、小説、まんが、ゲームなど)を活用して、観光と関連産業の振興を図ることを意図したツーリズム」とされる。

県内では、平成二十四年に放映されたNHK大河ドラマ「平清盛」を期に、県と神戸市が連携して、「K O B E de 清盛2012」と銘打ちPR活動を行った。神戸市の能福寺をはじめとする清盛ゆかりの施設への観光客入込数は、前年同期比で約六万人増加し、二・五倍となり、一九三億円の経済波及効果もたらされた。平成二十六年には、「軍師官兵衛」が放映され、観光キャンペーン「ひめじ官兵衛プロジェクト」が行われた。大河ドラマ館やロケ地となった書寫山圓教寺など関連施設の観光客入込数は、対前年同期比で約七万人増加し、一一〇・二%となった。県全体に盛り上がり波及し、経済波及効果は二四三億円に及んだ。

平成二十八年には、神戸市を舞台とするNHK朝の連続テレビ小説「べっぴんさん」が放映された。神戸市長を発起人として、県・市や商工会議所などから成る推進協議会を立ち上げ、情報発信に取り組んだ。ドラマの影響もあり、神戸地域の観光客入込数は、対前年同期比で一二八・三%と大きく増加した。

このほか、平成十八年八月に設立された「ひょうごロケ支援Net」を

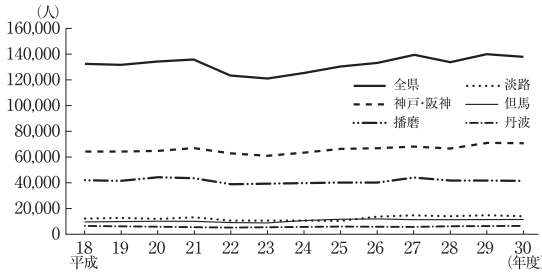


図72 地域別観光客入込数の推移
 (『兵庫県観光客動態調査報告書』より作成)

中心として、ロケ撮影を支援する県内各地のフィルムコミッションや市町等と協力・連携して、映像制作の誘致に取り組み、新たなコンテンツツーリズムの創出を目指している。

県内観光の動向
 平成十八年度から三十年にかけての県への観光客入込数について、兵庫県観光客動態調査を基に、以下に概観する。

平成十八年度は、のじぎく兵庫国体の開催等により、県内全域で入込数が増加した。平成二十一年度は、前述のJ・Rグループとのタイアップで実施した「あいたい兵庫、ステイネーションキャンペーン」、その後、県事業として行った「やっぱり兵庫キャンペーン」の影響が挙げられる。同年度は、新型インフルエンザの流行の影響による観光客の減少も見られたが、全体としては入込数は増加した。

平成二十三年度は、第一回神戸マラソンやB-1グランプリin姫路による入込客数の増加も見られたが、東日本大震災の影響で通年では減少となった。

平成二十五年度は、テレビCMで取り上げられた竹田城跡(朝来市)が「天空の城」と呼ばれ人気を博し、但馬地域の観光施設の入込数も増加した。

平成二十七年度は、平成の大修理を終えた姫路城が対前年度比で二二・〇%となり、中播磨地域全体でも二八・五%と大幅な増加となった。

平成二十九年度は、神戸港開港一五〇年関連行事等により増加し、神戸地域は、一二・四%の増加となった。



写真 182 岩手・宮城・福島被災地応援東北物産展 in 兵庫 (神戸新聞社提供)

平成三十年度は、七月豪雨や八月の台風の影響に加えて、神戸港開港一五〇年関連イベントの終了による神戸地域の減少（二〇・〇％減）が影響し、全体として減少した。

この時期の、県内観光客入込数の日帰り客数と宿泊客数の割合は、平成十九年度の宿泊客一四・五％が最も高かったが、以降は減少傾向となり、平成三十年度には、八・九％となった。近隣府県と比較して、本県は宿泊地ではなく、日帰りの観光地としての傾向が強まったことが看取できる。

東日本大震災からの
観光復興にむけた支援
平成二十三年三月十一日に東日本大震災が発生し、観光施設等にも大きな被害が生じた。外国人による訪日旅行、日本人による国内旅行ともに減少し、国内全体で観光産業は大きなダメージを受けた。

同年四月十二日には、観光庁長官通知「当面の観光に関する取組について」が、全国自治体、関係団体等あてに発出された。四月十九日、関西広域連合は、観光庁長官に対して「復興を支えるための観光推進に関する緊急要望」を行い、「国内各地での観光キャンペーンの積極的展開」「訪日旅行誘客のため海外での先導的なプロモーションの実施・国際観光ボランティアの募集」「訪日外国人旅行者への安心感につながる正確かつ分かりやすい情報発信」を求めた。国は「がんばろう！日本」をキャッチフレーズに、官民合同の国内旅行振興キャンペーンを開始し、被災地応援ツアーや風評被害を解消するためのイベント等を開催した。

本県においても、東北の被災三県を中心に、観光復興への支援に取り組んだ。同年五月から六月にかけて、「岩手・宮城・福島被災地応援東北物産展 in 兵庫」を神戸市、姫路市、宝塚市で開催した。また、七月からは「がんばろう東北」被災地ツアー支援事業を実施した。県からの旅行者が、東北地方を観光のため訪問し、被災三県のいずれかに宿泊する旅行について、現地で利用するバス代への支援を行った。当該事業を利用して全国旅行業協会兵庫支部が旅行商品を企画するなど、観光による被災地支援の輪が広がった。さらに、ひょうごツーリズム協会（現ひょうご観光本部）のホームページに「がんばろう！東北 東北を楽しもう」サイトを開設した。同サイトでは、東北六県の観光情報や東北物産展の開催などの支援情報、J・R・空港・道路の交通情報を発信した。

三 外国人観光客の急増―インバウンドの急拡大

外国人観光客の状況

「インバウンド」は、訪日外国人旅行を意味するが、平成二十年代の中頃から急拡大を見せた。近隣アジア諸国の経済成長による可処分所得の向上と円安の進行、ビザ発給要件の緩和、格安航空会社の拡大による訪日コストの低減化等が誘因となった。

訪日外国人旅行者数は大きく伸長し、平成二十七年には、四五年ぶりに訪日外国人旅行者数（一九七三万七四〇九人）が日本人海外旅行者数（二六九〇万三三八八人）を上回った。

中でも、中国人観光客は、日本製の医薬品や化粧品などに対して旺盛な購買欲を見せ、大量に商品を購入する姿が目立った。その様子は「爆買い」と呼ばれ、メディアでも大きく取り上げられるなど、インバウン

年の四七万六〇〇〇人から三十年の一八七万二〇〇〇人と、約三・九倍もの増加となっている。しかしながら、同じ期間の近隣府県と比較すると、京都府（約五・六倍）、大阪府（約五・七倍）、奈良県（約九・七倍）と比べて低い伸び率となっている。今後の観光振興の取組を通じて、より一層の訪日外国人旅行者の受入れの余地があるといえよう。

広域観光

周遊ルート

「東京から始まり、箱根や富士山を経て、愛知を巡り、最後に関西を観光して出国する（またはその逆をたどる）」行程は「ゴールデンルート」と呼ばれ、訪日外国人旅行者に人気となって

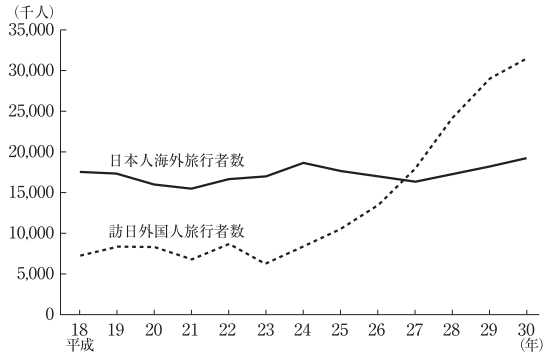


図 73 日本人海外旅行者数・訪日外国人旅行者数の推移

(観光庁資料より作成)

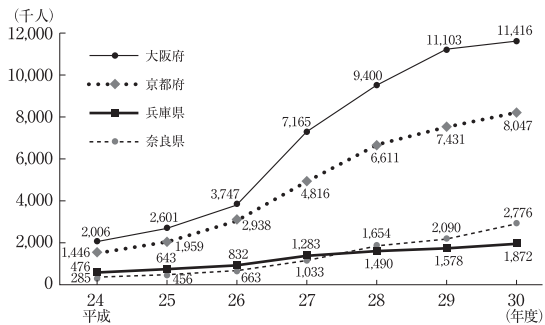


図 74 近隣府県の訪日外国人旅行者数の推移

(『ひょうごツーリズム戦略(2020～2022年度)』より作成)

ドの急拡大を象徴する言葉となった。

訪日外国人旅行者数は順調な伸びを見せ、平成三十年には三一一九万一八五六人と初めて三〇〇〇万人を突破した。

この間、兵庫県においても、訪日外国人旅行者数は順調に増加した。県が平成二十四年から三十年までの推計を行ったところ、兵庫県への外国人旅行者数は、二十四

いる。

一方で、ゴールデンルートだけでなく、それ以外の地域においても新たに魅力ある広域的な観光周遊ルートが形成されれば、訪日外国人旅行者の地方誘致やそれぞれの地域の活性化につながる。このため、観光庁では、訪日外国人旅行者の誘客の促進、さらなるインバウンドの拡大を目指して「広域観光周遊ルート形成促進事業」を実施した。同事業は、①国が募集、②事業実施主体（都道府県や観光関係団体など）による「広域観光周遊ルート形成計画」策定、申請、③認定の流れで進められた。同計画を踏まえ、訪日外国人にとって魅力のあるコンセプトを打ち出し、複数の観光資源を結びつけた具体的な観光周遊のためのモデルコースを策定している。これらは、広域連携DMOなどの実施主体が中心となって国外・国内に情報発信された。

本県を含む広域観光周遊ルートは、関西広域連合等を実施主体とし、関西地方の世界遺産を周遊する「美の伝説」ルート、せとうち観光推進機構を実施主体とし、瀬戸内の豊かな自然を楽しむことができる「せとうち・海の道」ルートの二つ（いずれも平成二十七年六月認定）がある。

また、県内においても、異人館、神戸港、有馬温泉などを有する神戸市、世界遺産・国宝の姫路城のある姫路市、城崎温泉や出石そばを楽しめる豊岡市をつなぐ周遊ルートを「ひょうごゴールデンルート」としてPRし観光客の拡大に取り組んでいる。